

機械に挟まれ作業員死亡

機械がトラブルで緊急停止⇒手作業中⇒急に機械が動きだす⇒体を挟まれる

2016年8月23日(火) 18時13分

23日午前10時、兵庫県にある工場で作業員の男性(58)が作業中に機械に体を挟まれた。男性は病院に搬送されたが、腹部を強く圧迫されるなどしたため死亡。警察が事故原因を調べている。同署によると、男性は事故当時、紅茶をプラスチックカップに入れる作業に従事していた。本来は全て機械がやるが、何らかのトラブルで緊急停止したため、男性が一部を手作業で行っていた。しかし、急に機械が動きだし、体を挟まれたとみられる。会社の話 痛ましい事故が発生してしまったことを厳粛に受け止め、安全管理の徹底と再発防止に努める。

交差点進入時は・・・

- ①あわてて行動しない
- ②交差点には、必ず「人」や「自転車」や「車」がいる
- ③相手は、「避けない」、「止まらない」・・・かもしれない

交差点では、信号の変わり目の・・・「見切り発車」、「後追い行動」は危険です

交差点 信号が、「青」に変わった！ チョット待て！ もう一度、安全確認しよう

バック時は、一度の確認だけでなく、もう一度確認しましょう

子供・高齢者は、動く赤信号！

- ◇見られていますよ！ あなたの運転、あなたの作業◇
- ◇危険な運転・危険な作業は、自分・他人の命取りです◇

熱中症労災ご注意 定期的に水分と塩分を取ること

2016年8月21日(日) 15時30分

猛暑が続く愛媛県内。愛媛労働局によると、20日までに報告のあった7月の熱中症による労働災害は6件で、うち1件では農業従事者の50代男性が亡くなった。労働局によると、死亡災害が起きたのは7月3日午後4時ごろ。午前7時からビニールハウスや屋外で苗の水やりなどを行っていた男性が、疲れた様子に気づいた同僚の勧めで休憩していたところ立ち上がることができなくなり、救急車で病院に搬送されたものの5日後に亡くなった。

5件発生した4日以上以上の休業のうち、商業に従事する20代男性は営業活動で自転車に乗っていたところ熱中症を発症。同じく商業の40代男性は屋外で廃棄物の分類作業中に気分が悪くなり、休憩室に向かう途中で意識を失った。ビルメンテナンス業の60代男性は駐車場で誘導作業中、意識を失い転倒した。

発生時間帯は午前11時が3件、午後3時1件、午後4時が1件となっている。労働局は「体が熱に慣れていないのが最大の要因」と警告。定期的に水分と塩分を取ることなどを呼び掛けている。

大型トラックの運転手 「前方不注視」 追突事故で大型車の間に挟まれる…軽乗用車の2人が重傷

2016年8月24日(水) 07時00分 静岡県警察本部 特別編集

19日午後2時30分ごろ、静岡県の東名高速道路を走行中の軽乗用車に対し、後ろから進行してきた大型トラックが追突する事故が起きた。この事故で軽乗用車の2人が重傷。警察は追突車の運転者を逮捕している。軽乗用車は前走する別の大型トラックとの間に挟まれ、サンドイッチ状態となって大破。運転していた67歳の女性が頭部強打で意識不明の重体。助手席に同乗していた14歳の女子中学生が手を骨折するなどの重傷を負った。追突してきたトラックを運転していた49歳の男を自動車運転死傷行為処罰法違反(過失傷害)の現行犯で逮捕している。警察では前方不注視が事故につながったものとみて、事故発生の経緯を詳しく調べている。

赤信号を見落として交差点へ進入、一步間違えば重大な結果 交差点でUターン車と衝突した観光バスの運転者に有罪判決

2016. 8. 23

昨年6月4日午後3時50分ごろ、奈良県の国道の交差点で、Uターン中の乗用車と対向車線を直進してきた大型観光バスが衝突。バスは急ハンドルを切った弾みで路外に逸脱して道路左側の歩道へ乗り上げ、歩道内に設置された信号柱にもぶつかった。この事故でバスの乗員22人が軽傷を負っている。過失傷害の罪に問われたバス運転手の男に対する判決公判が18日、奈良地裁で開かれた。裁判所は執行猶予付きの有罪を命じている。

事故はバス側の信号が赤表示になってから発生しており、検察は「運転者が注意義務を怠った」として、運転していた53歳の男を自動車運転死傷行為処罰法違反(過失傷害)の罪で起訴していた。

18日に開かれた判決公判で、奈良地裁の裁判官は「赤信号を見落として交差点へ進入しており、一步間違えば重大な結果となりかねないものだった」と指摘したが、被告が反省の態度を示していることや、被害の程度が低かったことを斟酌し、被告に対して禁錮6か月(執行猶予3年)の有罪判決を言い渡した。

JR北海道社員が飲酒運転

2016. 8. 22 17:41

JR北海道は22日、函館保線所の男性社員(22)が酒気帯び運転容疑で道警に摘発されたと発表した。同社は厳正に処分するとしている。JR北海道によると、男性社員は休日だった21日夜、函館市の飲食店で友人と飲酒。自家用車で帰宅途中に警察官に停止を求められ、酒気帯び運転が発覚した。JR北海道は「信頼回復のためコンプライアンス徹底の取り組みを進めてきたが、絶対にあってはならない事象が発生させた」と謝罪した。